釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□下□

存在感のある作品群

北国の厳しさ、優しさ追求

意欲的な作品を次々と発表

阿寒湖畔を活動の舞台として、北国の厳しさ、優しさを追求した木彫作品を制作し続けている。「冬の恐ろしいような吹雪、春のやさしく包み込んでくれるような風、その流れをノミで木に吹き込む」と語る滝口さん。なるほど、作品の中には、風に髪を大きくなびかせた立像や、作品全体がそよいでいるようなフォルムのものが見られる。また北国に生きる人々の姿をモチーフにした「魚を売るおばさん」「老女」には厳しい自然にたかな生命力が、圧倒的な存在感として見る者の心に迫って来る。

滝口さんは昭和十六年、満州奉天で生まれた。三歳の時肺炎による高熱で聴力を失った。敗戦で山梨へ帰った後、東京教育大学教育学部（現筑波大）付属ろう学校で木彫を習得した。二十二歳の時に一人旅をした北海道に魅せられて四十年に来道、四十二年に阿寒湖畔アイヌコタンに民芸店を構えた。四十五年に釧路市内で第一回個展を開催したのを皮切りに、意欲的な作品を続々と発表、時には流木の形に魅せられてこれに生命を吹き込み、山中に木を求めて何日間も歩き続ける。ひたむきな制作姿勢がその作品にもにじんでいる。

阿寒湖小に大彫像を寄付

五十七年から東京小田急百貨店で二年ごとに個展を開いている。五、六十点の立像やレリーフ、それに装飾品類。「この個展を楽しみにしてくれる人がたくさんいる。しかし良い作品を出品するためには毎年開催は無理です」このほど阿寒湖小学校前に子供達が未来に向かって健やかに成長する願いを込めた大彫像を完成、寄付したばかりだ。

津別町の北見相生にある旧役場をアトリエに借り、コタンの民芸店「イチンゲの店」も改装、いま創作意欲をますます高めている。

北国をテーマに木彫に取り組む滝口さん

木彫

滝口　政満さん

＝阿寒町阿寒湖畔＝

アッパレ君

木崎征夫